令和６年度　一般入学試験問題

# 国　　語

## 注　意　事　項

1　問題は１ページから17ページまであります。※現代文は著作権の都合上掲載できません。

2　試験時間は50分です。

3　試験開始の合図があるまでは，この問題冊子を開いてはいけません。

4　試験開始後，この問題冊子のページ不足・印刷の不鮮明などの不備に気づいた場合は，監督者に申し出てください。

5　解答はすべて解答用紙に記入してください。
**※字数制限のあるもので，句読点などが必要な場合は，すべて字数に含みます。**

6　解答用紙には，出身中学校名，受験番号，氏名を必ず記入してください。

自由ケ丘高等学校

## 四

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

昔、吉野山の※日蔵の君、吉野の奥に※行ひ歩き給ひけるに、長七尺ばかりの鬼、身の色は紺青の色にて、髪は火のごとくに赤く、首細く、胸骨は殊にさし出でて、※いらめき、腹ふくれて、脛は細くありけるが、この行ひ人にあひて、手をつかねて泣く事限りなし。

「これは何事する鬼ぞ」と問へば、この鬼涙にむせびながら申すやう、「我は、この四五百年を過ぎての昔人にてさうらひしが、人のために恨みを残して、今はかかる鬼の身となりてさうらふ。さてその敵をば、思ひのごとくに取り殺してき。それが子、孫、※曾孫、※玄孫にいたるまで、残りなく取り殺し果てて、今は殺すべき者なくなりぬ。されば、なほ彼らが生まれ変はりまかる後までも知りて、取り殺さんと思ひさうらふに、次々の生まれ所、つゆも知らねば、取り殺すべきやうなし。※瞋恚の炎は、同じやうに燃ゆれども、敵の子孫は絶え果てたり。我一人、尽きせぬ瞋恚の炎に燃えこがれて、せん方なき苦をのみ受け侍り。かかる心を起こさざらましかば、極楽、天上にも生まれなまし。殊に恨みをとどめて、かかる身となりて、※無量億劫の苦を受けんとする事の、せん方なく悲しくさうらふ。人のために恨みを残すは、しかしながら、我が身のためにてこそありけれ。敵の子孫は尽き果てぬ。我が命はきはまりもなし。かねてこのやうを知らましかば、かかる恨みをば残さざらまし」と言ひ続けて、涙を流して泣く事限りなし。その間にうへより炎やうやう燃え出でけり。さて山の奥ざまへ歩み入りけり。

さて、日蔵の君あはれと思ひて、それがために、さまざまの罪滅ぶべき事どもをし給ひけるとぞ。

（『宇治拾遺物語』より）

※　日蔵の君……平安中期の真言密教の僧。山中で修行をする修験道の道者。
※　行ひ……仏道の修行。また、勤行（ごんぎょう）。　※　いらめき……いらいらしている様に見える。
※　曾孫……孫の子。ひまご。　※　玄孫……曾孫の子。
※　瞋恚の炎……燃え上がる炎のような激しい怒りや憎しみ、または恨み。
※　無量億劫……はかり知れないほどきわめて長い時間。

問一　本文中の　さうらふ　を現代仮名遣いに改めて平仮名で答えよ。

問二　本文中の　つゆも知らねば、取り殺すべきやうなし　の現代語訳として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1　全く知らないので、取り殺すことができません。
2　全く知らないので、取り殺す必要がありません。
3　全く知らないならば、取り殺す必要がありません。
4　露さえも知らないので、取り殺す必要がありません。
5　露さえも知らないならば、取り殺すことができません。

問三　本文中の　せん方なき苦　について、これはどのような苦しみか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1　敵の子孫はいなくなってしまったのに、自分だけがわけもなく生き残って、孤独になっていることに対する苦しみ。
2　敵やその子孫に対する強い恨みが激しい炎となって自分の身体を取り巻き、熱く燃え続けていることに対する苦しみ。
3　敵の子孫を殺すという目的を果たし、他にやることがなく、新たな生きる目的を見つけられないことに対する苦しみ。
4　敵の子孫は絶えてしまったが、敵に対する恨みは尽きず、どうしようもない怒りがたまっていることに対する苦しみ。
5　敵やその子孫たちが生まれ変わるのを、何もすることなく、長い間待っていなければならないことに対する苦しみ。

問四　本文中の　我が身のためにてこそありけれ　とはどういうことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1　自分が相手を恨んでいたつもりが、実際は、自分が相手に恨まれていたということ。
2　人に恨みを残すことは、まわりまわって結局、自分にかえってくるものだということ。
3　人を憎く思う気持ちが消えない原因は、全て自分自身の中にだけあったということ。
4　人を恨んで殺そうとするばかりでなく、自分を大切にする必要があったということ。
5　人を恨んで殺してしまうのは、相手が悪いのであって自分のせいではないということ。

問五　本文中の　かねてこのやうを知らましかば、かかる恨みをば残さざらまし　の現代語訳として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1　もし生まれ変わっても敵を全て殺し尽くすことができないと前もって知っていたら、敵に対する恨みは残さなかっただろうに。
2　もし敵の子孫が尽き果てても自分は死ぬことができないと前もって知っていたら、鬼に対する恨みは残さなかっただろうに。
3　もし鬼の姿になってしまい人間に戻ることができないと前もって知っていたら、敵の子孫に対する恨みは残さなかっただろうに。
4　もし殺しすぎたせいで敵の子孫が尽き果ててしまうと前もって知っていたら、敵の子孫に対する恨みは残さなかっただろうに。
5　もしはかり知れないほど長い間苦しまなければならないと前もって知っていたら、敵に対する恨みは残さなかっただろうに。

問六　本文中の　やうやう　の意味として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1　一気に　2　ほんの少し　3　だんだん　4　めらめらと　5　激しく

問七　本文中の　日蔵の君あはれと思ひて　の説明として最も適当なものを、次の１～５のうちから一つ選び、番号で答えよ。

１　日蔵上人は、敵の子孫がいなくなった後も死ぬことができずにいる鬼を気の毒に思っている。

２　日蔵上人は、敵だけでなく無関係な敵の子孫たちまで殺した鬼を懲らしめようと思っている。

３　日蔵上人は、次々と人を殺した罪で死ぬことができず泣いている鬼を情けないと思っている。

４　日蔵上人は、次々と人を殺してまったことを後悔し詫(わ)びている鬼をすばらしいと思っている。

５　日蔵上人は、敵への恨みを残したままでもうすぐ死んでしまう鬼をかわいそうに思っている。

問八　本文の出典『宇治拾遺物語』は鎌倉時代初期に成立した作品である。これと同じく鎌倉時代に成立した作品を、次の１～５のうちから一つ選び、番号で答えよ。

１　枕草子　　２　奥の細道　　３　源氏物語　　４　方丈記　　５　竹取物語